

# 月経痛に対する漢方治療

川口 恵子 先生



## はじめに

月経困難症には、特別の基礎疾患を伴わない機能性の月経困難症と、子宮筋腫や子宮内膜症のような器質性の月経困難症があり、鎮痛薬や低用量ピルが処方されるケースが多いが、漢方薬も効果的である。そこで、各種月経困難症に対する漢方治療の実例を紹介する。

### 《機能性月経困難症》

機能性月経困難症63例に、芍薬甘草湯、当帰建中湯、当帰芍薬散、温清飲、加味逍遙散、桂枝茯苓丸などを投与し、概ね2周期程度の月経期間でその効果を判定した。治療前の痛みを10とし、直近の月経の痛みが、4以下になったものを著効、5~8を有効、9、10を無効とした。その結果、63例中40例で著効、15例で有効、8例が無効であった。

### 症例1 28歳 機能性月経困難症

主訴は月経痛。結婚して2年経過するも妊娠歴なし。約1年前から月経痛がひどくなった。体格は華奢。腹力が非常に弱く、腹直筋の緊張が著明。このような腹証は機能性月経困難症の典型でもある。

当帰建中湯を常用し、芍薬甘草湯を月経時のみの頓用としたところ3ヵ月後には、痛みは70%程度に軽減した。挙児希望が強く、不妊症に使用される当帰芍薬散に変方したところ月経痛がさらに楽

になり、自然に妊娠した(図1)。日常診療では、月経痛が楽になると同時に妊娠するというケースをよく経験する。

患 者：28歳 主婦 0妊0産  
主 呂：月経痛、挙児希望  
現病歴：結婚して丸2年たったが妊娠しない。  
1年前から月経痛がひどくなつた。

体 格：164cm、46Kg  
腹 候：腹力弱く、腹直筋緊張著明  
脈 候：沈、細

処方と経過：当帰建中湯と芍薬甘草湯投与3ヵ月後痛みは70%くらいになつた。  
基礎体温高温期が短いので当帰芍薬散に変方。  
月経痛は気にならなくなり6ヵ月後に妊娠した。

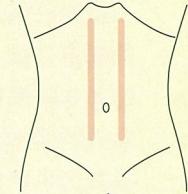


図1 症例1、機能性月経困難症の所見と経過

### 《子宮筋腫》

子宮筋腫は通常、手術やLHRHアナログ投与で治療されることが多いが、漢方治療も有用である。

子宮筋腫と診断された22例に、桂枝茯苓丸、温清飲、当帰芍薬散、通導散、桃核承氣湯などの駆瘀血剤を投与し、半年から最長は7年間経過観察した。その間、筋腫の増大が4例、不变が14例、縮小例はなく、判定不能が4例であった。子宮筋腫の漢方治療としては、著効が15例、有効が7例、無効はなかった。

### 症例2 41歳、子宮筋腫による月経痛と排卵痛

1年前から子宮筋腫と診断されていた。体格は非常に華奢。腹力が非常に弱く、腹直筋の緊張が非常に著明であった。この時点での筋腫は、最大径4.9×4.7cmであった。

腹診所見から当帰建中湯を処方したところ、排卵痛が消失し楽になったという。しかし、足が冷たい、冬にしもやけができる、とのことで当帰四逆加吳茱萸生姜湯に変方した。その結果、冷えも改善され、その後ずっと気にいって本剤服用中である。筋腫は徐々に大きくなる(6.1×5.7cm)なっているが、月経痛や排卵痛などは殆どない(図2)。

証がうまく合えば、漢方薬でも子宮筋腫のコントロールが可能である。

1973年 神戸大学医学部卒業  
同大学産婦人科入局  
1977年 同大学大学院修了  
1993年 神鋼病院産婦人科 部長  
2001年 川口レディースクリニック(神戸)開院

患者：41歳 主婦 1妊1産

主訴：月経痛、排卵痛

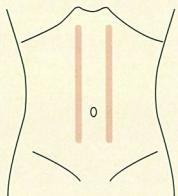
現病歴：平成13年9月初診。1年前から子宮筋腫といわれている。

体格：156cm、43kg

腹候：腹力弱、腹直筋緊張

脈候：沈、細

処方と経過：初診時4.9cm×4.7cmの筋腫あり。



当帰建中湯服用2ヵ月後、排卵痛が消失。

冬になると「しもやけができる」とのこと、当帰四逆加吳茱萸生姜湯に変方。

半年後、月経痛もほぼ消失。

筋腫は6.1cm×5.7cmになっている。

図2 症例2、子宮筋腫による月経痛の所見と経過

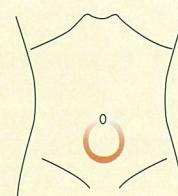
### 《子宮内膜症》

子宮内膜症と診断された15例に、当帰芍薬散、温清飲、芍薬甘草湯、桂枝茯苓丸、通導散などを投与した。子宮内膜症の漢方治療としては、著効8例、有効5例、無効2例であった。

### 症例3 34歳、子宮内膜症による月経痛

会社員で妊娠歴はない。主訴は月経痛で、27歳の時から受診。右のチョコレート嚢胞を認め、マーカーも非常に高値であったため、腹腔鏡下手術でチョコレート嚢胞を摘出。骨盤内に内膜症による病巣を認めたため、術直後よりリュープロレリンの投与を行った。しかし、月経が再開すると手術前と全く変わらない痛みが出現した。体格は中肉中背。腹力は中程度。下腹部に馬蹄形の抵抗を感じた(図3)。

桂枝茯苓丸と温清飲の併用で、月経痛は半減した。



患者：34歳 会社員 0妊0産

主訴：月経痛

現病歴：27歳で月経痛のため、某院受診。

右チョコレート嚢胞を認めた。

CA125：78 (U/mL)、CA19-9：410 (U/mL)

腹腔鏡手術後、6回のリュープロレリン投与を受けた。しかし、月経再開とともに月経痛が、手術前と同程度にひどくなつた。

体格：158cm、55kg

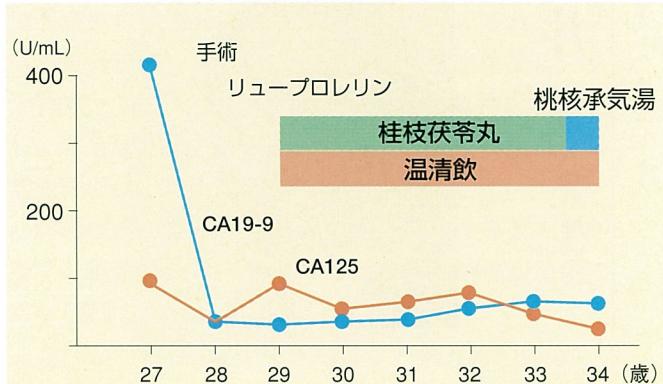
腹候：腹力中、臍下に馬蹄形の抵抗あり。

脈候：沈、実

舌候：紫、白苔あり。

図3 症例3、子宮内膜症による月経痛の所見

処方継続中、便秘気味になったので、桂枝茯苓丸を桃核承氣湯に変方。痛みは軽度にコントロールされ、7年にわたり継続服用中。それに伴い当初からあったアトピー性皮膚炎も改善した(図4)。



桂枝茯苓丸、温清飲にて月経痛半減し、処方継続。最近は便秘があるので 桃核承氣湯と温清飲に変方。幼少のころからアトピー性皮膚炎で皮膚科に通院していたが、現在ではほとんど治っている。

図4 症例3の処方と経過

### ディスカッション

#### Discussion

**後山** 月経痛は女性にとって我慢を強いられる症候の一つです。漢方薬以外の治療では、鎮痛薬程度であまり方法がありません。このような月経痛に対して、腹証をもとに漢方薬選択の基準を示していただきました。器質性の月経困難症で、駆瘀血剤以外に温清飲をかなりの頻度で使用されたとのことでしたが、この使用理由についておうかがいします。

**川口** 温清飲は、黄連解毒湯と四物湯の合方です。月経困難症の方は、過多月絏もあり黄連解毒湯で月経の量を減らすことが可能で、量が減れば痛みも減少することが期待されます。本剤は過多月絏の方にはよい処方であると思います。

**峯** 血が滞ると熱証を呈してくることも考えられますので、温清飲はよい処方でしょうね。ただ温清飲エキスは、四物湯と黄連解毒湯の比率が単純に2:1となっていますので若干の配慮が必要です。